

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

皆さんおはようございます。ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、6番、公明党の松尾陽輔、ただいまより一般質問を始めさせていただきます。

一般質問に入る前に、ちょうど2週間前になりますか、ニュージーランド地震の災害に見舞われた方々の御冥福とお見舞いを心より申し上げながら、武雄市においても小・中学校の耐震化、さらには老朽化に伴う建てかえ等、公共施設の耐震化計画が確実に進められているかと思えますけれども、今後とも最重点事業として耐震化計画に関しては進めていただくように、市長に切にお願いを申し上げておきます。この本庁も、耐震の計画にも入っているかと思えますから、ぜひ進行していただきたいと思っております。

また、いつ何時、災害が起きるかわかりませんので、今以上にすべてにおいて危機管理体制の強化と、いま一度の管理体制のチェックを市長に改めてお願いを申し上げておきたいと思えます。

それでは、一般質問に入ってまいりますが、最近、マスコミ、新聞等で議会の役割、議員の力量、議員の情報の発信力が問われております。さきの2月27日、佐賀新聞の1面に「住民の期待へ」「悩み多く」という見出しの中で、市長も「発信する首長」「問われる議員の力量」という見出しの中で、議員の力量、情報力が問われておりました。

議員の役割、議会の役割、議員の情報力とは、1つに、この一般質問であると私は位置づけて、毎回質問をさせていただいております。今回も目いっぱい現場の声、地域声を踏まえて、今回は、まず最初に観光行政について、2つ目に各事業に対する検証と提案を通告に従って質問をさせていただきます。

まず、観光行政についてでありますけれども、先週の5日でしたか、東北新幹線に何と時速300キロのはやぶさが初運行をいたしました。また、今週の土曜日12日には九州新幹線が全面開通し、観光地への選択肢が大きく広がっていく中で、各自自治体も観光客誘致にいろいろな仕掛けといたしますか、動きを見せており、市長、これからの観光行政は言うまでもなく、各自自治体の知恵比べといたしますか、アイデア、情報の発信力であります。

そこで、今回も私から、観光への知恵とアイデアを発信させていただきたいと思えますけれども、まずは武雄市に観光客がどれくらい来ていただいているのか、状況をつかんでおく必要がありましたので、資料を私なりに調査をしてみました。その中で、佐賀県が観光客動向調査を毎年公表しております。インターネットにも公表されております。

そこで、最初の質問でございますけれども、この観光客動向調査の結果を武雄市としてどのように分析をされておるか、まずお尋ねをさせていただきます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

答弁申し上げます。

観光客数は、全国的に見ると、長引く景気低迷だったり、口蹄疫、インフルエンザの影響で、全国的には減少傾向であります。武雄市の場合は、御案内のとおり、これは議会にも大きく賛同していただきましたけれども、フジテレビドラマ「佐賀のがばいばあちゃん」のロケ誘致の効果によって増加傾向に転じています。「がばいばあちゃん」だけで淀姫神社は15万人お越しになって、神社が建てかわりました。ありがとうございます。

しかしながら、ここ一、二年は横ばいです。ほかが減っているのにもかかわらず、横ばいだということは、これは観光協会を含めて、頑張っている証左かなと思うんですけども、その中で問題なのは、日帰り客は確かにふえているんですけど、宿泊客数が、下げ幅は小さくなったものの、依然減少をしています。

そういった中で、観光動態調査の中の1つの項目なんですけれども、消費額ですね、幾らお金を落とすかということに関しては、宿泊客と日帰り客では大きな差があって、宿泊客数が武雄の場合は割合がだんだん減っていますので、そういう意味でも消費額が落ちているということになりますので、いずれにしても、宿泊客をどうやって増加するのかということが観光動態調査から読み取れる我々の対応策だというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

手元にも、観光客動向調査の資料があります。30ページぐらいに及びますけれども、口頭で説明するよりも、数字で若干説明をさせていただいたほうが皆さんにもわかりやすいかと思しますので、若干数字的に説明をさせていただきますけれども。（パネルを示す）これがすべてではございませんけれども、一応今の動向の目安ということで見ていただければと思います。

2年ですけれども、佐賀市が527万1,000人、観光客、1年。唐津市が851万9,000人、隣の嬉野市が183万5,000人、一方、武雄市が167万5,000人、年間の観光客ですよ。さすが唐津市が多いですね、850万人、1年間。

それで、さっき市長も言われました宿泊費ですね。日帰り観光等もありますけれども。その中で、佐賀市が38億円、唐津市が47億円、嬉野市が64億円、武雄市が22億円と、若干宿泊費が落ち込んでいますね。

そういった中で、飲食費を見てみますと、佐賀市が46億円、唐津市が106億円、嬉野市が43億円、武雄市が25億円。唐津市なんかは、呼子町等があるせいだと思いますけれども、100億円の大台に乗っています。

それから、土産品費、幾ら土産を観光客の方が買っているかということですが、土産品費、佐賀市が10億円、それから唐津市が84億円、嬉野市が22億円、武雄市が

4億円ということで、極端に武雄市が土産品費が落ちているというふうな数字が見てとられるかと思います。

ただ、あくまでも、これが推測というふうな部分の中で、こういった形でとられているかと。例えば、武雄市なんかは、温泉を目的に来られている方が土産品まで買って帰るか、いろいろな問題がありますけれども、こういうふうな数字で一応、目安的に今説明をさせていただいていますけれども、例えば、土産品費をとってみますと、隣の嬉野市は1人当たり1,200円、買い上げは。武雄市が250円という数字になっています。これは、土産品費から観光客数を割って、1人当たりの消費額を出させていただきました。そういった中で、非常に武雄市の土産品費の売り上げを見てみますと、1人当たり250円、嬉野市は1,200円という数字が、ここに出ております。

市長のトップセールスの中でレモングラス等の推進をしていただいて、非常に効果は当然出ているかと思います。そういった中で、今の数字を私なりに分析をさせていただいて、この土産品費の250円という部分の数字をどのように感じられているのか、どうとらえておられるのか、まずお尋ねをしていきたいかと思います。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、確かに少ないですね。ただね、これは明確な基準とかないんですよ。だから、多く出そうと思ったら、幾らでも出せます。これは別に信頼しているわけじゃないんですけどね。だから、これをもって、嬉野市と比べて少ないとか断定的に言うのは、ちょっとどうかと思うんですが、ただね、やっぱり体感温度としても、嬉野の場合だったら嬉野茶がある、温泉湯豆腐がある、いろんなのを思いつくけれども、武雄はまだそこまでないですね。だから、この数字は謙虚に受けとめる必要が私はあるかと思います。

幸いなことに、レモングラス、これは議会でもいろんな推進とか反対とかあって、宮本栄八議員なんかはいろんな取り上げていただいて、これも宣伝になったんですけど、これの中で、特にレモングラスが市民アンケートで、武雄の特産品は何かって市民に問うたときに、今レモングラスが1位なんですよ。だから、もう少し時間がかかるかもしれないんですけども、これを大事に育てたい。

それともう1つは、これは固有名詞はまだ上げられませんがね、全国チェーンをするお肉のお店、全国チェーンのお店、これに武雄のレモングラスティーの採用が決まったんですね。まだ、名前を言うと、また、ちょっと御迷惑をかけるので、決まったときにちゃんと申し上げますけど。あと、例えば、全国のめんのチェーン店、津々浦々、ここの武雄のレモングラスティーの採用も決まったんですよ。だから、これはなかんずく、営業部特産品課を中心とする物すごいセールスのおかげなんですね。

だから、だんだんだんだんそういうふうになっていますので、これを育てる必要があるだろうというふうに思っていますので、そういう意味では、次、今度、トロピカルフルーツをやりますので、次々に仕掛けていきます。

それで、我々として大事なものは、よくこれは勘違いされますけれども、うまくいくやつをやれとかというのは、よく言われるんですね。でも、それはわかりません。やってみなきゃわかりません。だから、余り批判、批判、批判しないでね。だれがどうかと言いませんけれども、とにかく伸ばすことが大事だと思っていますので、ぜひ、そういった意味での御協力を特に議員の皆様方をお願いをしたいというふうに思っております。

そういった中で、重ねてでありますけど、この数字、落差というのは謙虚に受けとめております。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

数字の基準、とり方にいろいろ問題があるかと思えますけれども、とりあえずの目安としては、このような武雄市の実態をつかんでいただいて、次の一手をどう打つかということが大事かと思えます。

例えば、今の4市の売り上げの平均を見ますと662円ですよ、平均の売り上げが。武雄市が250円ですから、その平均値まであと400円ほど伸ばしていただければ、観光客が160万人ぐらい来ていただいておりますから、約7億円売り上げが上がるということですから、その次の一手をいかに打っていくかということが非常に大事な部分だと思えます。レモングラスの次の一手はトロピカルフルーツですか、いろんな仕掛けが大事かと思えます。

そういった中で、私からの提案といいますか、東国原前宮崎県知事がトップセールスで宮崎県のマンゴー、それから地鶏あたりが全国ブランドになりましたね。もう皆さんも御存じかと思えます。そういった中で、いろんな、レモングラスも当然いいでしょう。それから、トロピカルフルーツも当然いいかと思えますけれども、視点を変えて、地元にも、もう全国に誇れるいろんな食材、食べ物があるわけですね。例えば、若木の若楠ポークあたりも非常に、畜産農家のある方も東京の大手のホテルに納品していらっしゃる方もいらっしゃいます。いろんな形で売り込み、努力されているということで、ぜひとも市長もいろんな部分の中で、そういうふうな地元産のトップセールスをぜひお願いしたいと切に思いますが、御見解をお尋ねいたします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

私は、東国原さんとか、例えば、親しくしている橋下知事と比べると、まだ全国的に見て

ブランド力はありません。ですが、ちょっと潮目が変わったなと思うのは、去年の12月26日の「報道2001」に2時間出ずっぱりで出たときから潮目がやっぱり変わってきています。これも、まだ詳細は申し上げませんが、4月か5月に、また全国放送に私、出ます。そのときに、私、樋渡啓祐が出て意味ないんですね。だから、武雄市長の樋渡啓祐が出るということが武雄市の最大の宣伝だと思っていますので、僕はテレビ、嫌いなんです。見ばえもしません。新聞のほうが好きです。ですが、ここはやっぱりね、もう僕も自分の控え目な気持ちはちょっと置いておいて、とにかくやっぱりテレビに出て、そこで宣伝するのが一番やっぱり効果的かなということで、もうルビコン川を渡ります。原口一博さんほどは出ませんよ。だから、そういうふうにして、とにかく武雄を売っていこうというふうに、完全にマインドが変わりました。

その中で、やっぱり、よくこれ言われるんですよ。市長ね、レモングラスの前に、若楠ポークやりなさいとか、いろいろ言われますよ。だけど、それは私にブランド力がないから、普通の市長が地元の産品を言っても、だれも振り向いてくれないんですね。だから、ある意味、旗艦商品としてレモングラスを出して、その結果、注目が今、武雄にやっぱり集まっているんですよ。だから、今度はいよいよ、ホップ、ステップ、ジャンプのステップの段階で、若楠ポークの時代が来ると思います。武雄のイノシシも来るし、橋下のイチゴも来ます。だから、それをうまく組み合わせて出していこうというふうに思っていますので、ぜひ、その情報発信は、今、ツイッターとかフェイスブックとかいろいろありますので、ぜひ議員の皆さんたちの御協力もお願いをしたいと、このように思っております。

#### ○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

#### ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも地元、さっきおっしゃって、いろんな食材等がありますので、レモングラスとあわせて、トップセールスは十分、市長持っておられるかと私は思っておりますので、よろしくお願いを申し上げながら。

安くてうまいという部分の中で、B-1グランプリ、皆さんよくテレビ等で見て、また行かれた方もいらっしゃるかと思いますけれども、B-1グランプリの全国大会、九州大会の開催を武雄市で何とかできないかという御提案ですけれども、ちなみに昨年、秋田県の横手市で開催をされたようでございます。人口が横手市は10万人ですよ。その中で入場者が26万人、経済効果が何と30億円ですよ、B-1グランプリ。そういった中で、横手やきそばがグランプリをとって、今では観光客が焼きそばを食べに来るといいう相乗効果が出ているということです。また、神奈川県厚木市においては、入場者が43万人、経済効果が60億円ですよ。そういった中で、近場で言えば、久留米市が九州大会を開催しております。入場者が18万人。そういった中で、観光客の増加、それから経済効果、知名度のアップ、地元商店街の

活性化、いろんなどころに波及効果が出てきているわけですよ。

そういった中で、武雄市の呼び込む環境がどうかと思ったときに、競輪場周辺で開催はできないのかどうか、あるいは、鉄道高架の下でも開催はできないのかどうか。受け入れ体制は、もうですね、宿泊施設は十分ありますから、そういった中で、B-1グルメの町北方という部分の中で、うどん、ちゃんぽん、地鶏、国道34号線沿いを中心に昔ながらのうどん店、ちゃんぽん店などを多彩に飲食店が積極的にPRということで、あそこを通られると、のぼり旗が非常に目につかれるかと思えますけれども、北方町の34店舗もB級グルメの町ということで、非常に盛り上げていただいているようでございます。

そういった中で、ぜひ、今すぐというか、B-1グランプリの開催にはいろんな条件、ハードルが当然ございます。来年、すぐしてくれという状況じゃないですけども、2年後を見据えて、こういうふうな企画をぜひ市長、取り組んでいただければと思いますけれども、いかがでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

例えば、秋田県の横手市の場合、横手やきそばってあるんですよ。ですので、そういうもともと強烈な地場のものがあつたときにB-1グランプリにはなじむというのは、議員と同じ考えだと思うんです。

一方で、私もそれ、すごい関心があつて、久留米市からいろんな話を聞いたんですね。久留米も何万人と集つてやつたんですけど、まあ、ほとんど効果なかつたって言っていますね、正直言つて。なぜかという、そこだけ行つて、もうすぐ帰っちゃうつて。だから、地元の商店街の人たちというのは、何じゃそれという感じだったらしいんですね。いろんな見方がありますよ。ですが、私が少なくとも聞いた、五、六人から聞いたときは、ちょっとそれはうまく連動しなかつたと。

だから、議員がおっしゃるとおりに、やっぱり、ある意味、純粋な民間主導とか行政主導というのは、やっぱり失敗の可能性がすごく高くなるんですね。ですので、私が今考えているのは、議員とこれ全く一緒に、今、武雄市商工会ですよ、物すごく元気があります。特に、その中でも光武さんって、NHKにも出られましたけど、ちゃんぽんをされていて、その34号線というのは物すごく、そういう意味では聖地みたいにもう今なっているんですね。例えば、井手ちゃんぽんが、もう佐賀県の、武雄どころか佐賀県の顔みたいになっているんですね。「るるぶ」には必ず載っています。かまくらも、通の人たちには物すごくやっぱり知られていて、お忍びで来られる人たちも、やっぱりいらっしゃるんですね。NUF NUFもそうです。うみもそう。だから、我々が思っている以上に、もう全国の人に知られている、34号線が。だから、もう少し時間をいただいて、要するに、もう少しブランド力をアップし

たときにB-1グランプリなのか、ちゃんぽん対決なのかわかりませんが、それは企画としてはしっかり応援をしていこうというふうに思っています。

それと、もう一方、やっぱり考えたいのは、やっぱり全国初じゃないと、もう今来ないんですよ、人が。だから、私としては、この武雄をダボスにしたいんです、ダボスに。要するに、ダボスはスイスの物すごく不便な、僕は夏に行ったことがありますけど、不便なところであって、しかし、冬、激冬のときに、世界じゅうから、菅さんも行きましたけど、3,000人から4,000人集まるんですよ。あんな不便なところに。そうしたら、武雄を日本のダボスにしたいと思っていて、そこで、だから、ツイッターとかフェイスブックとか、盛んに今やっています。ですので、私とすれば、そういう、例えば、日本フェイスブック学会の総会を武雄でやるって、そしたらね、もう今、二、三千人来ますよ。今、言うだけで、で、来たときに、それと、さっき言ったようなB-1のものを組み合わせると。来た人は必ず食べますからね。だから、そういう単発じゃなくて連動して仕掛けることが今の段階、必要なのかなと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、よろしく願いをしておきたいと思います。久留米、効果がなかったとおっしゃりましたけれども、やり方次第だと思うんですよ。何とか佐賀県でも武雄が最初に手を挙げると。佐賀市もB-1グルメの九州大会を何とか誘致しようという動きをしているようでございます。そういった中で、何とか佐賀県でも1番に手を挙げていただいて、そういうふうな形での活性化、観光客誘致という部分の中で、ぜひ取り組みの願いを私からさせていただきたいと思います。

それと、観光行政という部分の中で、教育旅行とコンベンションの取り組みについて、ちょっと質問に入っていきたいと思いますが、教育旅行、要は修学旅行ですよ。全国で何と2,190億円の修学旅行の市場があるとされておりまして。生徒数にして約400万人。そういった中で、修学旅行の誘致あたりは、武雄市として今どのような形といいますか、後で質問に入っていきますけれども、まずは修学旅行者あたりを武雄市はどのくらい受け入れをまずしているのかどうか、お尋ねをしていきたいと思います。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

刈野営業部長

○刈野営業部長〔登壇〕

修学旅行の受け入れ状況についてでございますけれども、平成22年の1月から12月の1年間で、宿泊を伴うものは75校で5,200人、また、宇宙科学館など日帰りでは600校、3万7,300人を受け入れております。合わせて675校、4万2,500人の子どもたちに武雄を訪ねて

いただきました。これが実情でございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

宿泊が75校で約5,200人、日帰りは600校ですね、宇宙科学館等もございますもんですから、日帰りが600校の約3万7,000人。多いか少ないかという、その辺の判断はどう思われますか。御答弁できますか。どうぞ。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

少ないと思いますね。武雄のキャパで150万人の中で、たった5,200人というのは、僕は少ないと思っています。

ただ、修学旅行を受け入れる市内の宿泊施設が23施設中8施設しかないんですよ。だから、もともと能力があるのにキャパがないということです。このギャップをどういうふうにしようかなっていうことを今ちょっと考えているんですね。

だから、もう少し、今度は、修学旅行というのは必ずありますよね。今、ともすれば、海外がちょっと不幸な事件等があつて、危険だということになって、国内回帰が大分進みつつあると思うんです。ですので、武雄を修学旅行のメッカに、京都に次ぐメッカにしていきたいなと思っています。

ですので、これはなにかんづく、宿泊施設の皆さんたちに協力をお願いしたいと思っていますので、なにかますさんなんかはよくやられていますので、それがもう少し広がればいいなというふうに認識をしております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も、少ないなという部分の中で聞かせていただきました。いろんなキャパとか、あるいは、普通の一般客と修学旅行生との料金の問題も若干ありはするかと思いますけれども、もう少し武雄市としても働きかけをすればいいのではないかと、旅館、それからエージェント、旅行会社、それから学校というつながりの中で、旅館業者の方が学校になかなか行きにくいと、そういうふうな誘致活動にですね。それとか、今後、中国とか韓国あたりの外国からも何とか武雄に来ていただきたいというふうな宿泊の誘致に関しても、そこに行政も若干かわりをしながら後押しをしていかなければ、なかなか、エージェント任せ、あるいは旅館任せでは、増加というか、ふえないかと思えますけれども、その辺の行政のかかわりが今後大事な部分というか、役割が求められるかと思えますけれども、その辺の御見解を市長、お願



いたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

我々としては、2つ考えています。

1つが、九州東亜（東アジア）物語って、これは溝上課長が中心に今やってもらっているんですけどね。これで福岡、雲仙、平戸、嬉野、武雄と組んで、去年は台湾に参りました。ことしもどうも台湾に行くみたいなんですけれども、そういうふうに、武雄だけじゃ、なかなか無理なんです、力がなくて。ですので、福岡の力を特にかりるということ。だから、新しい市長さんとも仲よくしたいんですけれども。そういった中で、我々としては、面としてセールスをかけてまいります。繰り返しになりますけど、ことしもまた台湾に首長さんたちそろって行って。トップセールスって、やっぱりきくんですよね。ですので、それは十分その任は果たしていきたいと思っています。

それともう1つ、これは佐賀県庁、なかんずく古川知事が一生懸命やっていたいるんですけどね。全羅南道、佐賀県が県と道と友好姉妹締結を結んだといったときに、我々としても、ぜひ、せっかくの、県レベルじゃなくて、今度は基礎自治体の市レベルで姉妹都市を結びたいということを思っていて、これは議会とよく相談をしますけれども、そういった中で、これは単に行政同士のつながりじゃなくて、観光ですよ、観光を中心としたつながり。特に全羅南道の場合は、今正直言って手つかずなんです。ですので、これを九州、武雄に引っ張ってくるということ、それをひとつ、ことし進めていきたいなと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

まさに、その辺が一番キーポイントだと思いますから、ぜひともトップセールスというか、市長の力を発揮していただいて、誘致を積極的に取り組んでいただきたいという部分の中で、ちょっと見方を変えて、コンベンションの状況についても、ちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、いろんな研修会、展示会、あるいは各会議あたりが各地でも開催をされておりますが、先ほどの修学旅行の受け入れ状況も聞きましたけれども、コンベンションの受け入れが、武雄市ではどのくらい受け入れをされているのか、ちょっと確認をさせていただきたいと思っております。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

淵野営業部長

○淵野営業部長〔登壇〕

コンベンションの開催状況についてでございますけれども、市内でのコンベンション開催については、文化会館では年に100回程度開催されているのではないかとこのように思っています。それ以外にも大小のスポーツ大会等の開催もあっておりますけれども、この数については把握をしていません。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

コンベンション、いろんな会議、あるいは展示会、あるいは研修会等の開催の状況を今お尋ねしたところですが、ちょっと少ないようなですね、これも少ないような気がいたします。以前は西日本一と言われる文化会館の施設を抱えている武雄市としては、もっと積極的にこの辺のコンベンションの誘致もしていただきたいというふうに思っております。

ある自治体というか、長崎市あたりは、コンベンション協会とか、あるいはコンベンション、いろんな展示会とか会議とか研修会を開催するに当たって、一定の条件をつけて、支援制度を設けているわけですよ。特に佐世保市なんか、この支援制度を設けて、いろんな大会を誘致している、呼び込んでいるというふうな形で、積極的にこの辺のコンベンションの誘致も取り組んでいる自治体がございますので、武雄市もぜひとも、この辺の体制をですね、実態が若干わからないという先ほどの答弁でございましたけれども、これも行政としても、ある程度の関心を持っていただいて、何とか武雄市もPRをという一環の中で、観光行政の中で取り組んでいただきたいと思っておりますけれども、その辺の御見解を市長、お尋ねをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

その御指摘は、松尾陽輔議員を含めて多々ありましたので、今までのコンベンションの助成金が5万円だったんですね。これじゃ、なかなか来ないですね。ですので、23年度より50万円、引き上げます、10倍。引き上げて、それで誘致を積極的にやっています。

ただ、さっき、ちょっと、若干答弁が不足してはいたんですが、例えば、去年、全国自治体学会、あれ1,000人以上来ているんですね。これは、文化会館も使ったんですけども、実はセンチリーさんにすごくお世話になったんですね。だから、その数が入っていなかったり、要するに、民間と我々がハイブリッドでやったものについては、この数字は入っていませんので、それを全体を考えると、我々は非常に、実は同規模の自治体、同じ地理的な自治体からすると多いと思っています。

ただ、これを日帰りじゃなくて1泊、1泊を2泊に持っていくような仕掛けをやっていき

ます。なかんずく、これは議会の皆さんたちの、特に牟田議長のおかげ、前の杉原前議長のおかげなんですけれども、議会視察が物すごく多いです。ですので、この視察がさらにふえるように、この視察がコンベンションにね、次つながっていく、次の視察につながっていくというふうに仕掛けていきたいと思っていますし、武雄に泊まっていた方、今、僕に物すごく会いたいということ、どうせ、この風もあと1年ぐらいでやみます。やむ間に、とにかく私に、もう観光資源ですので、武雄に泊まった人だけに会おうと思っています。そういう意味で、とにかく武雄に泊まっていたら、お金を落とさせていただくと。

それも、ぜひ、議会視察は、北中城村ってあるんですよ、沖縄に。あのときは、これは山口昌宏議員から聞きましたけど、議員さんが相手してくれるって、議員さんが。ですので、我々としても、私が出るのもいいんですけども、ぜひ、お手すきの議員に出ていただければ、それだけで、北中城村の、この前会いましたけど、議員さんたちはあっちこっち、ほかの視察に北中城村に行った人たちも言っているんですよ。いや、あそこは議員さんが4人出てきて、4時まで相手してもらったとかですね。ですので、皆さんたちも観光資源です。上田議員。ですので、ぜひ、そういう意味でのおもてなしを議会の皆さんたちにも、私も一生懸命やりますよ。ですので、協力をお願いしたいと、このように思っております。

**○議長（牟田勝浩君）**

6番松尾陽輔議員

**○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕**

武雄市は5万円が限度ということで、今回は50万円ということで、いいことだと思います。そういった中で、コンベンションを機会に来ていただくというのが大事な部分だと思いますから、ぜひとも大いにおもてなしを十分していただいて、リピーターとなっていただくように、コンベンションに関しても行政でバックアップ、支援体制をよろしくお願い申し上げます。

それにちょっと関連をしますけれども、迎える側としておもてなしという部分、おもてなしと言ったらどうか、あれですけども、文化会館、それから北方の大ホール、観客席とステージに上がる階段がございます。いろいろな大会の中で、その階段を利用する障がい者の方、高齢者の方が、あそこに手すりがあれば、さっと上がれるけれども、今手すりがなくて、ステージに上がるのも、ちょっとこうですね、恐る恐るというか、付き添いが必要というふうな部分の中で、いろんなコンベンション、大会をするに当たって、その辺の手すりあたりの、ぜひ設置をという要望の声が私に届いておりますから、その辺、ぜひ設置をしていただきたいと思っておりますけれども、市長のお考えをお尋ねいたします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

先日、松尾陽輔議員に誘われて、アグネス・チャンの、あれは見事でしたね。アグネス・チャンの満員のホールの中で、何人かの方から、私も言われました。これは、やっぱり僕らはだめだなと思いましたね。やっぱり言われないと、この手のものは気づかないということになりましたので、我々としては、これは予算措置します。した上で、やっぱり1回、そういうふうにお困りの方々に見ていただいて、これね、健常者の皆さんがすると、また使い勝手が悪くなるパターンもありますので、実際お使いになられる方に御協力を賜って、もう本当に優しいね、体に障がいをお持ちの方に、本当に優しい、そういう整備をしていきたいというふうに思っていますので、御指摘の文化会館の施設については、教育委員会に指示をして、早速やりたいと、このように思います。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

北方の大ホールも、いろいろ利用者も多い、同じような条件になっていますから、文化会館とあわせて、北方のホールのほうも、その辺の気配りをよろしく願いしておきたいと思えます。

それでは、次の質問に入らせていただきます。

観光行政の最後になりますけれども、温泉浴と森林浴への取り組みという中での観光行政の視点で、ちょっと確認というか、これの御提案も一部させていただきながら、お尋ねをしていきたいと思えます。

ちょうど、今から7年前、平成16年の3月に、温泉浴、温泉療法を取り組んでいただいて、新しい武雄市の温泉まちづくりをどうですかということで、もう7年前ですから、前市長のときに御提案をさせていただきました。そういった中で、非常に、温泉療法を取り組むに至っては、温泉療法士の育成、あるいは温泉施設の認定条件がいろいろあったものですから、なかなか具体的に温泉療法という部分の中では、ちょっと私自身もそれ以降、若干、調査もいまいちという部分がありましたけれども、泉質あたりも日本に誇れる武雄温泉の泉質でございます。

そういった中で、森林浴と同様に、温泉浴、温泉療法というのはリハビリ、あるいは生活習慣病予防に最適というふうな温泉療法でございます。ぜひとも新武雄病院と一体となって、今後、その辺の温泉療法という部分の中で、観光の中の一部として、例えば、長期滞在型、あるいは人間ドックと組み合わせながら活用していくという御提案を市長にさせていただきたいと思えますけれども、御見解をお尋ねいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これこそが、私が、今メディアとかにだんだん取り上げてきてもらっていますが、メディカルリンクタウン、医療の連携のまちの1つの大きな柱にしようと思っていて、これは鶴崎理事長とももう話を進めています。

そういう中で、宿泊施設と、例えば、新武雄病院を組み合わせる、あるいは新武雄病院だけで独占するわけじゃないんですね。できる、できない、ありますので、今、医師会と僕、余り仲よくないんですがね、仲よくなって、そこで、医師会ともよく連携をしたいなというふうに思っているんですね。やっぱり仲よくが一番ですよ。その中で、私はそういうふうに思っている。

ただ、やっぱり、これでネックになるのは訴訟なんですよ。朝日新聞に、やっぱりあれだけ書かれたじゃないですか。あれは、私を支持していただける中身だったんですけどね、朝日新聞。あれ、ネットに出ているから、もうあっちこっちで、もめているというふうになっちゃうんですよ。だから、もう本当にね、そういうのは、やめてほしいと言っても、もうやられていますからね、もう仕方がないんですが、これが莫大な損失になっているということは、ぜひ御理解をしていただきたいなというふうに思っています。

やっぱりね、イメージが大切なんですよ、イメージが。同じことをやっても。だから、我々としては、それはそれとして、メディカルリンクタウンの1つの大きな構想としてやると。

それともう1つ、私は、ちょっとおくれて行ったんですけども、山崎まゆみさん、この前、これ九電と佐経調でしたかね、主催で文化会館の小ホール、もうほぼ満杯来られていた、まちづくりシンポジウムで基調講演をされた山崎まゆみさん、愛浴家と言うんですね。これね、字を間違えると大変です。愛と書いて、よくは、お風呂ですのでね。だから、ちょっとなかなか「あいよくか」って言えないんですね。肩書はそうなんですけど。その方をぜひ武雄温泉の温泉大使に起用したい。これは、どこが主体となるかは、ちょっと、行政が主体となるか、観光協会が主体となるか、組合が主体となるかはわかりませんが、とにかく起用して、ああいった方の発信力を期待したいというふうに思っています。

今、やっぱり、よくよく見ると、観光地というのは、だれが発信しているんだって、結構、やっぱり見るんですね。その仕掛けが最もうまくいったのは、やっぱり由布院なんですよ。由布院の場合は、およそ観光と縁遠い人がどんどん発信したんですね。例えば、作家の小林秀雄であったりとかが発信をして、そのだれが言っているかというのは、今、その小林秀雄さんの時代よりもはるかに今大事ですので、そういう意味で言うと、橋下知事であったりとか、愛浴家の山崎まゆみさんであったりとか、そういった方々とうまくつながって、どんどんやっぱり発信をしていきたいと、このように両面でやっていきたいと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6 番松尾陽輔議員

## ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひ、よろしく願いをしておきたいと思います。効果も確実に出ておりますので、そういった中で、条件も武雄市は整っておりますので、ぜひとも、その辺の温泉浴、温泉療法に関しては手がけていただきたいと思います。

あわせて、森林浴、森林セラピー、森林治療といえますか、武雄市全体が森林セラピー地域と言っても過言ではないかと思っておりますけれども、特に若木あたりは自然に囲まれてですね。セラピーといえますか、森林にはフィトンチッドという成分が含まれて、香りでいろんなストレスを緩和していくというか、安らぎといえますか、その辺の部分の中で、森林浴という、非常に最近、ちまたといえますか、全国でも42カ所認定されているそうでございます。近くでは、福岡県のうきは市、それから八女市、それから篠栗町あたりがですね。うきは市なんかは、去年というか、平成20年に森林セラピーの認定を受けて、年間1万2,000ぐらいの方が来ていらっしゃるというふうなことも聞いております。

川良の柏岳ですか、あそこも非常にいい環境ですけれども、なかなか、県の所有で、私も今後、いろんな形でいかに活用できるかを検討していきたいと思っておりますけれども、いろんな、森林浴も温泉浴と同様に、環境に適した武雄市ではないかと思っておりますけれども、今後、その辺の森林セラピーとしての取り組みというか、森林セラピストあたりの育成も今後手がけていけば、また新たな観光誘致の源泉となるかと思っておりますけれども、その辺のことに御見解を市長、お尋ねしておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

## ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

これは、けさの佐賀新聞なんですけれども、伐採やチップまきで武雄市の建設会社、これはセリタ建設なんですけど、きのう、私も参りましたけど、柏岳、洗面器山の保全林整備に一役、二役買われていて、これはCO<sub>2</sub>削減、詳しくは申し上げませんが、企業活動としてもメリットのある活動をされているんですね。ここに、さっき申し上げたとおり、伐採やチップまきということで、うちの市の職員も数十人、ここのオープニングには参って、一緒に保全林の整備をしたんですけれども、恐らく、これが多分、1つの大きなきっかけになると思うんですよね。これでまず成功体験をつくっていただいて、これが、じゃあ、自分たちも次やってみようとか、これは企業なのか、中間支援団体なのか、行政なのかは、ちょっとこれは置いておいても、まず自分たちの森なんだっていうことを気づいていただいて、これをやることによって、これだけ自分たちにとってメリットがあるんだよということは、やってみなきゃわからないですね。ですので、そういう機会を我々としてはふやしていきたい。

その中で、恐らく、これにプラスアルファして、さっき議員から御指摘のあったように、

森林セラピストの取得が必要だということであれば、それはそれできちんと応援をしていきたいというふうに思っていますので、まず、やっぱり現場ですね。入って行って、こういう、セリタ建設さんのような活動を積極的に支援をしていきたいと思っています。

最後にしますけれども、私のみんなの政策集の中でも、森林整備隊ということを行っていますので、ちょっとこれ、どういうふうに制度設計するかというのは、今まだ悩んでいますけれども、こういう企業の皆さんとか団体の皆さんと一緒に、つながって、森を再生していく方向が今いいんじゃないかなと、このように思っていますので、もう少しそれはちょっと時間を与えていただければありがたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

行政単独では非常に厳しい部分があるかと思っておりますので、民間と一体となって、その辺の取り組みもぜひよろしく願いをしておきたいと思っております。

森林セラピーの認定条件としては、五感に働きかける環境があることということと、整備環境が整っていること、あるいは管理等対策が十分にあるところというふうな条件が5つほどございますから、その辺をもう一度確認をしていただきながら、どういうふうな形で行政と民間と一体となることができるかということで、ぜひとも立ち上げていただきたいと思っておりますので、よろしく願いを申し上げながら、次の質問に入っていきたいと思っております。

次は、各事業の検証と提案についての質問に移っていきたいと思っております。

最初に、「がん予防 日本一」がん対策事業と今後の計画についてということで質問を進めていきたいと思っておりますけれども、これも平成21年の6月でしたか、生命、命を守るがん対策の強化充実を市長、ぜひとも早目に手がけてくださいということで質問を、21年の6月に、最初にさせていただきました。その中で、市長、がんの特効薬は何ですかというふうな質問も冒頭させていただいて、がんの特効薬は早期発見、早期検診ですよという部分の中で訴えをさせていただいたことは、もう記憶にあられるかと思っております。

そういった中で、最後の市長の答弁の中で、がん撲滅に向けて、心新たに、全力でやっていきたい、やっていますというふうな決意を市長、その21年6月の私の質問の中で御答弁をいただいたようでございます。

そういった中で、早速、有言実行をしていただいて、東大の中川教授を呼んでいただいて、小学校、中学校にがんの勉強会、いろんな形で取り組みをしていただきましたし、また今回、がん検診率向上課まで設置をしていただいて、日本一予防、がん予防日本一武雄というふうな部分の中で取り組みをしていただいているようでございますけれども、我が公明党においても、2年前に、がん検診の向上のために、乳がん、子宮頸がん検診の無料クーポンの配布をさせていただきました。結果として、効果が非常に出ていますよ。これはもう全国

の数値ですけれども、09年度から無料クーポン券が始まったものですから、無料クーポン券が配布されて、配布前と配布後を比較してみますと、受診者で18万人、無料クーポン券の配布で受診者がふえたという結果が出ております。それと、特に20歳の受診者あたりは、536人が5,132人、約9.6倍ふえられた、クーポンの効果でですね。それとか、がんが発見された方が274人も見つかったというふうな調査結果が出ておりますけれども、武雄市においても、この無料クーポン券が実施をされております。そういった中で、どのような効果があったのか、確認をさせていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

それでは、武雄市の状況につきまして、パネルを使って御説明をさせていただきます。（パネルを示す）

御指摘のとおり、平成21年度に無料クーポンの取り組みが始まったわけですけれども、取り組みを始める前の20年度につきましては、子宮頸がんが14%でありましたけれども、無料クーポンを始めまして21%に21年度はなつたと。それから、次年度の22年度につきましては23%というふうに、2年間で9%ほど伸びているという状況であります。

次に、乳がんですけれども、乳がんにつきましては、取り組みを始める前の20年度につきましては18%、取り組みが始まった21年度に23%に5ポイントほど伸びまして、さらに22年度につきましては29%まで伸びたということで、2年間で11ポイントほど伸びているという状況になって、大変効果が出ているということで考えております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

いいことですね。これだけ受診者がふえたということは。

先月の27日、「3年B組金八先生」で有名な三原じゅん子参議院議員が、議長の配慮によって若木町のフォーラムに来ていただきました。実際、子宮頸がんを三原じゅん子参議院議員は患われて、体験を踏まえて、ぜひ早期検診をしたほうがいいですよというふうな訴えを若木町のフォーラムでしていただきました。それと、先ほど市長も言われました、今月3日でしたか、アグネス・チャンのライブ・アンド・トークが3月3日にありまして、文化会館で。アグネス・チャンも乳がんですよ。ステージの上から、ぜひとも皆さん、早期検診をしてくださいというふうな部分の中で、おかげで完治して、もうこんなに元気になりましたという切実なる訴えをステージの上からアグネスさんがされておりました。

そういった中で、非常に早期検診のムードが今高まってきております。今回、公明党が推



進をしてきました子宮頸がんワクチンの予防接種という部分が、今回、やっと無料で実施をされるようになりました。そういった中で、どのような形で今回、この予防ワクチンの接種が取り組みをされるのか、御説明をとりあえず確認させていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

これもパネルを使いまして御説明をさせていただきたいというふうに思います。（パネルを示す）

子宮頸がんにつきましては、ワクチンが非常に効果があるということで、全国で中学1年生から高校1年生までを対象に、武雄市の場合ですと、本年の1月1日からワクチンの予防接種を無料で行うということで取り組みをさせていただいているというところでございます。

ワクチン接種につきましては、3回ほどワクチンを接種するというところで効果が非常にあるというふうに言われておまして、1回目の接種から1カ月後に第2回目を打つと、それから、1回目から数えまして6カ月後に3回目を打つということで、非常に効果があるというふうに言われているところでございます。

ワクチンにつきましては、現在、報道によりますと、大変不足をしているという状況もございまして、これらにつきましては今後対応を進めていきたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も、中学2年と中学3年の娘がおるものですから、関心が非常にあるわけですが、子どもが学校を通じて、この子宮頸がんワクチン予防接種の御案内という封筒を持って帰ってきました。その中に、子宮頸がんワクチンに関するお知らせ、平成22年度、今説明をしていただいたような説明書が入ってありました。それと、子宮頸がん等予防ワクチン、あるいは接種の医療機関もここに書いてありました。

ただ、手渡しも当然いいかもわかりませんが、このワクチン接種を進める上で、なぜこのワクチン接種が必要なのか、もう少し保護者の方々に説明をすべきではないかという部分で感じているわけですよ。これを見ただけでは、なかなかですね、難しい言葉もあります。発がん性HPV16型、18型の感染を防ぐワクチンですよとか書いてありますが、なかなか、見てもわからないわけですよ。やっぱり実際、ある程度の認識というか、先生方、学校、いろんなですね、私も育友会の役員をさせていただいておりますから、説明会をやりますよということであれば、ある程度集っていただくわけですよ。そういった中で、ぜひとも、そ

ういうふうな形の説明会を実施していただきたいと思うわけですが、その辺の御見解とか、対応をぜひお願いしたいと思っておりますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かに、僕も見ましたが、それはわかりません。そういう意味からすると、これは、責任逃れするわけじゃないんですけどね、基礎自治体どうこうの問題じゃなくて、今もめている厚生労働省ですよ。もう本当に。だから、厚生労働省の現場を知らない役人の人たちが、特に医官の人たちがそういうふうにつくるからいかなのですよ。だから、私としては、1回ね、ちょっとこれ、県と厚生労働省とちゃんと相談します。これは医療のことだから、我々がわかりやすくって思ったことが、場合によっては違う場面もありますので、しっかり、そこは上位行政と話をし、そこで1回、説明のリーフレットをきちんとやっぱりつくろうということは思っています。その上で、先ほど議員から御指摘があったように、このためだけの集会をやるのか、例えば、PTAとかいろんなありますよね。そこにお邪魔をして説明をするのかというのは、一番効果的な方法をよく地域の皆さんと協議をして進めていきたいと、このように考えております。確かにわかりにくいです。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

このワクチン接種も、因果関係があるかどうかは、今ちょっと調査をされておるかと思っておりますけれども、いろんな問題もある部分があるわけですよ。ただ、こういうふうな形で、非常に、書類上だけではわかりにくい部分、あるいはこういうことを聞きたいという声もやっぱり行政としても知っておく必要があるわけですよ。そういった中で、そういうふうな部分の中で、説明等していただければ、検診の向上率も上がってくるし、最初が肝心ですよ、要は。1回、そういうふうな形で取り組んでおけば、口コミでも、しておったほうがいいよというお母さんたちの声かけの中で徐々に広まっていくと思っておりますので、まずは最初が肝心の中で、そういうふうな形の徹底した説明会の開催をよろしく願いしておきたいというような形で思っております。

そういった中で、ただ、この子宮頸がんワクチンが単年度の補助事業なんですよ、これが。これがまたおかしいですね、今は。生命を守るといながら、単年度の補助事業で、これは恒久的な予防接種法の中で取り組みをぜひしていかんといかんということで我が公明党も訴えをさせていただいているところですが、

高知県では、高校3年生までワクチン接種をしますということで、もう市単独で補助金を出している自治体もございます。そういった形で、唯一のワクチン接種でがんを予防できる、

この子宮頸がんワクチンなものですから、ただ、私自身も、また公明党としても、恒久法としての取り組みをぜひ訴えをさせていただきたいと思っておりますけれども、さっき申し上げました、単年度の補助事業なものですから、もし、これが途絶えたときには、ぜひ市長、「がん予防 日本一」を標榜する武雄市としては、この分だけでも予算措置をしていただいて、継続事業としてぜひ取り組みをしていただきたいと思います切に訴えます。

今の状況では、中学1年生から高校1年生までですけれども、今後、その対象者は中学1年生だけというふうな形の対象になっているかと思っておりますけれども、武雄市内では女性の生徒が、今の中学1年生で市内に約200名ほどいらっしゃるかと思っております。このワクチン接種が大体5万円ですから、約1,000万円の予算措置をすれば継続的に、この事業は単独でも実施できるというふうな形となっておりますから、市長、ぜひともその辺は、先ほど申しました、標榜する武雄市としての市長の御決意をここで確認させていただきたいと思っております。いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは、ぜひね、公明党さん、与党になってください。もうね、おかしいですよ。これが何で単年度なんですかね。子ども手当も単年で今もめている。これは自民党、本当、賛成しなきゃだめですよ、子ども手当は。

そういった中で、私が思うのは、さらに子ども手当よりも、もっともっと大事な話ですよ。何で、これが単年度なのかということ。でもね、今の民主党に言っても、もうわかりません。だから、それはもうね、主張する人が与党となって、多数決で進めていただきたいと思いますというふうに思います。

そうなるってくると、我々としては、それを前提に、これは絶対やりたいと思っています。訴訟費用で大変ですけどね。やっていきたいと思っていますので、ぜひこれは国と県と打って一丸となって、これは進めていきたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、我々公明党も恒久法として、また予防接種法としての取り組みを訴えていきたいと思っております。ただ、そういった形で、大切な命ですから、年間、若い人たちが約3,500人ほど命を落とされている、この子宮頸がんなものですから、ぜひとも武雄市としても積極的に取り組みをしていただきたいと思いますということを切にお願いを申し上げて、次の質問の高齢者対策事業について質問に移らせていただきたいと思います。

高齢者対策は、いろんな事業にも取り組んでいただいております。今回、私から1点、御

提案をさせていただきたいと思っておりますけれども、2月25日の佐賀新聞に、県営住宅に福祉枠を設置されたということで報道がされております。各団地1棟に障がい者の方々の入居が安易になりましたという福祉枠が各県営住宅にも設置をされております。

高齢者の方が今、武雄市に単独、ひとりの独居の高齢者が1,900人ぐらいいらっしゃいます。ひとり暮らし、65歳以上の方。それと、高齢者のみの、二人の方が約3,000人、約5,000人の方が高齢者二人住まいとか、ひとり暮らしの方の高齢者がいらっしゃいます。そういった形で、ひとりになったときに、何とかそういうふうな住宅がないかどうかという要望も私に多く寄せられております。そういった中で、ぜひとも武雄市の市営住宅にも、こういうふうな福祉枠、グループホーム的な1室を確保できないか。

今の既存の市営住宅では、まだ入居したいという方々が非常に多くいらっしゃるものから、あえてそこに福祉枠を設ければ、せっかく入居したいという方々にも支障が若干出るかと思っておりますけれども、それは今後の課題として、今回、和田住宅が新設というか、建てかえになります。それがいい機会だと思うんですよ、市長。ぜひ、そこに1室でも2室でも福祉枠をぜひ設置をですね、市営住宅としてぜひ設置をお願いしたいというふうに、切にお願いを申し上げたいと思っておりますけれども。

障がい者の方も、非常に多くございます、武雄市においては。そういった形で、先ほど申しましたように、市営住宅の初の試みとして、市長、ぜひともこれは取り組むべきと、私から切にお願いを申し上げたいと思っておりますけれども、御見解をお尋ねいたします。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

和田住宅、確かに議員が御指摘のとおり、1つのモデルになると思うんですね。これは、建設課の市丸が一生懸命、自分の哲学をそれに反映して、普通の市営住宅は、私もいろんなところを見ましたけれども、独居でお住まいのところって、今ふえているんですけど、それね、独居グループとかつくるんですよ、Aグループって。で、ファミリーはBグループとかつくるんですよ。余りA、B言うといけないでしょうけど、こうやっているわけですね。だけど、市丸さんのすごかったところは、これをモザイク状に組み合わせる。だから、独居でお住まいの御高齢者だったり、障がいをお持ちの方だったところに、横は子どもさんがいるファミリーがあると。モザイクみたいになっているんで、これはやっぱり市丸さんすごいなと思えましたね。

だから、和田住宅をきっかけにして、そういったことを、まだ今度どう建て直しするかというのは今後立ててまいりますけれども、していきたいと思っていて、実際もう福祉枠になっているんですよ。今でも、例えば、御高齢者の方とか障がいをお持ちの方というのは、入居基準を緩和したりとか、抽せんがあっても優先抽せんをしたりとかというふうになってい

るので、県が優先枠って、どういうこと言ったかわかりませんが、もう我々は実際そうなっているということ。これが足りないということであれば、実際お待ちになられている方々との関係もありますので、それはよく調整をしていきたいと思っています。

それともう1つ、我々としては、今、空き家がふえています。ですので、この空き家をグループホーム化する動きもありますので、これは県とベクトルはちょっと違うかもしれませんが、我々は空き家の有効利用の一環として、1つの方策として、こういうグループホーム化を進めていく。そういった場合に、我々としては、しっかりと、訴訟で費用は大変ですけどね、補助をきちんとしていきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも、モデルケースとして取り組みをお願いしたいと思います。

グループホーム、あるいはケアホームなどの社会福祉法人にも提供して、管理運営をしてもらうということも1つの方法でもありますので、その辺も具体化をしていただいて、ぜひともモデルケースとしての和田住宅に組み込みをしていただきたいということを切にお願い申し上げながら、高齢者、あるいは周辺部対策というふうな部分の中での定住特区制度について、ちょっとまた質問に移っていききたいと思います。

定住特区、若木、それから武内、東川登等から今度は西川登、山内、北方、橋という部分の中で広げていただきました。定住奨励金が新築の場合は1人当たり10万円とか、支給限度が100万円、50万円というふうな部分で補助金制度ができております。今現在、この定住特区制度の利用状況がどうなのか、ちょっと確認をさせていただきます。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

山田政策部理事

○山田政策部理事〔登壇〕

定住特区につきましては、平成19年度から実施しているわけですが、22年度までで全体で27件、73名の方に武雄市においていただいているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

定住特区制度の効果は、どのような判断をされておりますか。この実績を踏まえて。御答弁できますでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

## ○樋渡市長〔登壇〕

まあ、100点満点で60点ですね。やっぱり、数はそこそこふえています。全体でも、何人かな、14人、15人、13人こうなっていますので、20年、21年、22年とね。だから、20年が計6世帯の14人、21年が計6世帯の15人、22年が計4世帯の13人。もっとあるかなと思ったんですけど、これはやっぱりなかなか難しいですね。住まいというのは、そんな簡単に、ベルトコンベアみたいに乗ってくるわけじゃありませんのでね。来た方の好みもあるし、あと、地域の方の受け入れ態勢も、やっぱりこれはあるんですよ。ですので、我々とすれば、率直に言って60点、このように思っております。足らざるところは、ぜひ知恵をおかしいただきたいと、このように思っております。

## ○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

## ○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も、人口減の歯どめにはなっているかと思えますけれども、人口増にはなかなかつながっていないのが現実のこの制度ですね。

市報にも人口統計というか、調査が毎月出ておりますけれども、22年の1月と23年の1月の人口比も載っています。見られた方も多いかと思えますけれども。武雄市、9町あって、武雄町と朝日町だけですよ、人口がふえているのは。この1月時点だけをとらえてみればですね。あとの7町は全部、減ですよ、人口減。一番人口が減っているのが山内町69名、それから、北方町40名、人口が少ない若木町も多いですね、マイナス24名。1月現在で1,912名がですね、もういよいよ1,900人を割り込む状況に若木町は来ています。今年度の小学1年生の入学者が、市長、14名ですよ。やっぱり、地域に子どもたちの声が聞こえてこないというのは、非常に寂しい気がいたします。私も5人子どもを育てながらきて、時にはやかましかこともあったですけども、やっぱり子どもの声が地域に聞こえてくるというのは、非常に活気があるというか、元気があります。また、若い人たちもいれば活力が自然と出てくるわけですよ。

ただ、そういった状況の中で、現実的には非常に厳しい結果が出ております。特に若木では、山田さんが経営する建物循環型で、非常に積極的に、何とか人口をふやしていきたいというふうな取り組みをしていただいておりますけれども、その資料でいきますと、平成22年度が、先ほど言いました1,900人、これがあと8年後、平成30年には1,700台まで落ち込んできます。それとか、小学校1年生のここの入学者が14名ですけども、あと二、三年後はもう6名、7名ですよ、入学者が。これはもう若木町に限らず、どこの地域でもこのような現象が出ているかと思えますけれども。

そういった中で、私からの提案ですけども、以前、昨年でしたか、市長、ぜひとも若木町に市営住宅を建設してくださいよという問いかけを1回質問させていただいたことがある

かと思えます。そういった中で、今の財政難で厳しいですねと、何とか民間のお力で、民間を活用して、民間でどうですかというふうな答弁をいただいた記憶がございます。

そういった中で、何とか私も人口増加につながる策はないかという中で、若木町の工業団地の一角がなかなか売れ残っております。また、今回、北方町にも大規模な工業団地ができておりますけれども、ますますあの一角はそのままの状況になってくるんじゃないかというふうな部分で、若木町民も何とかあの工業団地の一角を活用できないかと、県から武雄市が払い下げをしていただいて、市が購入して、それを民間に売却して、あの一角を何とか宅地化にできないかどうかという部分の考えもしておりました。ぜひ、その辺の考えもしていただきたいというふうな形でも思っておりますけれども、先ほど申し上げましたように、何とか民間の活力を、市営住宅も先ほど申しました財政難で厳しいというふうな返答も前回の答弁でいただいておりますけれども。

ちょうど私が提案をしたかったことが、これも玄海町に先を越されたといいますか、玄海町は、先ほどの定住特区制度を拡充して、民間の集合住宅にも補助金を出しましょうというふうな定住特区の拡充を発表されておりました。3月4日ですね、今回、私が3月8日ですから、4日おくれの質問になってくるわけです。私も、ぜひこの分に関しても、何とか民間の、それは当然、民間が開発する分に関しても、幾らかなりとも、そういうふうな特区制度の中で支援が行政としてできないかどうか、その辺ももう少し具体的に検討していただければというのが。やっぱり住宅ができないと、人口がなかなかふえてこないというのが現実です。先ほど、定住特区制度の評価を60%という市長の判断もされておりました。また、私も、歯どめにはなっているけれども、実際、人口増加にはつながっていないという訴えもさせていただきました。

そういった中で、もしよければ、当然、今の財政の中で民間の活力は必要です。そういった中で、この住宅の特区制度を拡充していただいて、民間の住宅、アパート建築にも幾らかは支援制度を適用できないかということで、ぜひ取り組んでいただく御提案をさせていただきたいと思っておりますけれども、御見解があればお尋ねをしていきたいと思っております。いかがでしょうか。

**○議長（牟田勝浩君）**

樋渡市長

**○樋渡市長〔登壇〕**

まず申し上げておきたいのは、武雄の減り方って、そんな議員がおっしゃるほど落ち込んでいないんですよ。例えば、これ、正確に言うと、国勢調査の速報値、議員もごらんになられていると思うんですけども、例えば、伊万里とか嬉野の減り方と比べると、武雄の減り方はさほどでもない。ということは、とりもなおさず、これは佐賀新聞ですね、2月26日の土曜日に載っているんですけども、そんなに激しくないということです。

例えば、データで出ていますので、武雄市が2005年が5万1,497人が2010年が5万715人で、増減率からすると1.5%。お隣の多久市で、これまたまた多久市があったので、言いますと、減少率5.8%なんですね。基山が5.5%だったりするわけですね。玄海町、実はこれ、5.3%減っているんですよ。だから、よく皆さん頑張っていると思います、本当。

ただ、そうは言っても、現に議員から御指摘があったように、若木でも、西川登でも、山内でも、東川登でも、やっぱり減り方のスピードが上がっていますので、これに対しては何らかの対策を打つ必要があるだろうというふうに思っていて、これは今すぐ、これをこうしたいという知恵はないんですけれども、今の定住促進特区をさらに拡充をします。拡充をして、今度はめり張りをしっかりつけます。今は薄く広くやっているんで、ありがたみがないんですね。ですので、ワクチンじゃないんですけど、ここに行くぞということをしていきますので、例えば、若木町全体とかじゃなくて、例えば、若木町の本部地区とか、地区を区切って、カンフル剤を打つようにしていきたい。

ただ、これ、山口良広議員がお住まいになられている黒尾地区がすごく参考になると思うんですよ。一番低かったときなんか40世帯でしょう。それが今、何世帯ですか。（「65」と呼ぶ者あり）65世帯ですよ。（「今は70」と呼ぶ者あり）70。もう70超えていますよね。今もどんだんぞんぞん住宅が建っていて、その余波が私の生まれ育った川上まで波及しているんですね。もう黒尾にも土地がないと、もうそんな苦勞したくないということで川上に広がっているんですね。

だから、それを考えた場合に、いきなり行政主導で何かやるということよりは、議員がおっしゃったように、民間の建てるものについてしっかりとサポートをするというほうが、ある意味、効果的かなというふうに議会質問を伺いながら思いましたので、その方向で制度設計をします。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も、2月26日の佐賀県の国勢調査による自治体の人口や世帯数の増減の資料を手元に持っております。

市でも唯一、鳥栖市だけが人口増加をしているんですよ。あとは、各市の増加率を見れば、武雄市は当然、さっき言われたように1.5%減ぐらいにとどまっているというような状況ではあります。ただ、先ほど私からの提案ですけれども、1つの人口減の対策という部分で、こういうふうな考えもあるということで検討していただければと思います。

そういった中で、先ほど、今の定住特区の拡充もそういうふうな形で検討しておるといふふうな形でおっしゃっていただいておりますし、あえて言えば、要は、あと10年後、15年後を見据えたときに、今手を打っておかないと、目に見えて、限界集落じゃありませんけれ



ども、衰退していくのが目に見えていますから、そこに手を打っていくのが行政だと思いますから、ぜひともいろんなところで話を聞いていただいて、手を打っていただきたいということを切にお願いして、この定住特区制度の事業の検証と今後このような取り組みをしていただきたいということを市長に御提案させていただいて、最後の質問に入らせていただきます。

最後は、予算提案事業の取り組みについてということでお話をさせていただきます。

各地域に、9町に協働まちづくり交付金ということで配付を、事業予算化をしていただきました。若木町も約1,000万円ほど交付金をいただいて、オフトークの資金等に回させていただきます。

非常に、今回の協働まちづくり交付金に関しては、使い勝手がいいというか、地方分権の交付金じゃないでしょうけれども、地域の裁量でいろんな事業も展開をさせていただきました。これに関しては、財源確保も、今の民主党じゃないでしょうけれども、子ども手当の財源の、やっぱり恒久的な財源があってこそ、こういうふうな交付金あたりの手だてもできるかと思えますけれども、ぜひとも、この分に関しては、やりくりをしていただきながら、何とか継続事業としての交付金事業を進めていただきたいということを切にお願いを申し上げます。

この分の配付の仕方といいますか、支給の仕方に当たって、与えられるものではなくて、何とか各地域で、こういうふうな事業を展開したいんだけど、予算の取り組みをぜひ陳情したいと、先ほど申しました予算提案事業の中で、この事業を今後進めていただければ、もっとよりよい効果のある交付金事業という形の展開になるかと思えますけれども、その辺の提案、予算、地域における予算提案事業のシステムの導入という部分の中で、市長、御提案を私からさせていただきたいと思えますけれども、御見解をお尋ねしておきたいと思えます。いかがでしょうか。

#### ○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

#### ○樋渡市長〔登壇〕

これは悩んでいます。私とすれば、なるべくですね、例えば、1,000万円なら1,000万円の枠で、これこれを使いたいということ、それをもって、自主性というか、独立性というかね。若木の場合だったらオフトークでしたし、そういった、やっぱりですね、私はやっぱりそっちのほうがいいと思います。答弁資料と違うことを全然言いますけど、手を挙げて、要望すると、我々がお上になっちゃうんですよ。これはよくないですね。やっぱり、それで我々がいい、悪いというのを判断するといったときに、どこにそんな正当性があるんだということになると思います。これは、いい、悪いというのは、我々行政で、財政課、決められないですね。

だから、一定の人口とか面積とか勘案した上で、その交付金の枠で決めることこそが私は地域主権だと思うんですね。ですので、やっぱりですね、これはちょっと議論します。今、市役所の中でも、執行部の中でも議論が割れていることですし、地域の皆さんとよく相談をして、松尾議員がおっしゃる手挙げ式がいいのか、私が最初議会に御提案をして認めていただいた交付金方式がいいのかというのは議論をしていただこうと。その上で、議会の皆さんたち、地域の皆さんたち、執行部の皆さんたちが、いや、手挙げ式がいいですといったときは、私は君子豹変す、そっちのほうに持っていきたいと思っています。

松尾議員、これ、多分、一長一短あるんですよ。ですので、1つの考え方とすれば、最初の3年間で交付金制度にして、それは満たされたという認識に立って、次は手挙げ方式にすると。いろんな方法を試行錯誤するというところこそが、お任せ民主主義じゃない、本当の民主主義につながっていくのかなということは思っております。

ただね、もうあれですよ、朝日新聞にも書かれましたけど、住民訴訟の費用で大変なんですよ。半年以上延びていて。これはぜひ、議員の皆さんたちも認識を共有していただきたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

先ほど市長がおっしゃっていましたが、採用する、しないという判断は、非常に難しい判断だと思います。

ただ、私の思いとしては、地域みずから発案、提案し、予算要求をしていくところにこそ、よさも一面はあるかと思えますから、ぜひともその辺の考えも認識というか、取り入れていただきながら、新たな交付金の配付に検討していただきたいことを切にお願い申し上げて、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。